

令和5年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業



令和5年度中学校武道授業（銃剣道）指導法研究事業
〔主催＝日本武道館・全日本銃剣道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁、協力＝勝浦市立勝浦中学校（千葉県）〕が、12月8日～10日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて研究者7名の参加を得て実施された。

中学校における銃剣道授業の充実に向け、勝浦市立勝浦中学校の生徒（24名）の協力を得て、模擬授業の実施及び指導法の検討を行った。

■初日（12月8日）

開講式では、はじめに市野保己全日本銃剣道連盟副会長兼専務理事、沢登英徳日本武道館振興部振興課長補佐が、それぞれ主催者挨拶を述べた。

開講式終了後は、翌日に実施する模擬授業の方法を検討した。模擬生徒として午前中に勝浦市立勝浦中学校剣道部、午後に同吹奏楽部の協力が得られるため、研究者を午前と午後の2つのグループに分け、模擬授業を行うこととした。また実際の中学校武道授業では、銃剣道の授業を実施できる時間が他の武道に付随して行う1～2時間程度であるため、まず生徒に体験してもらうことに重点を置いた内容とすることを確認した。

石川慎也研究者が中心となるグループでは、翌日の指導案について話し合いを行い、滝沢元気研究者が中心となるグループでは、木銃で突く的や風船を作製するなど、教材づくりを行った。最後に、研究者同士で模擬授業において実施するペットボトルを使用したボウリング大会の予行練習を行い、初日の予定を終えた。

■2日目（12月9日）

午前中は、剣道部の生徒9名の協力を得て、石川研究者・田村聖一研究者・清水陽介研究者が模擬授業を行った。まず、石川研究者が銃剣道着と防具の紹介を行い、「面は突き垂の部分が太い」など剣道の防具と

の違いを示した後、礼法及び木銃の取り方・持ち方・構え方・突き方を指導した。続いて「ボウリング選手権大会 in 勝浦」と称して少量の水を含ませたペットボトルをボウリングのピンに見立て、ソフトバレーボールを木銃で突いてペットボトルを倒すゲームを行い、大いに盛り上がった。

午後は吹奏楽部の生徒15名の協力を得て、滝沢研究者、菊池聡研究者、千葉隆研究者、宮内佑輔研究者が模擬授業を行った。はじめに菊池研究者が本模擬授業の一連の流れを、下記の「〇〇の呼吸」等、アニメ「鬼滅の刃」をモチーフにし、「鬼退治に行こう」と呼びかけた。まずは、滝沢研究者が銃剣道の用具と有効打突の説明を行った後、千葉研究者と宮内研究者が模範演武を行った。続いて、菊池研究者が礼法の指導を行い、滝沢研究者が木銃の持ち方・構え方を指導した。「足の形はレの字」、「右手は腰骨につける」、「剣先の高さは胸の高さ」等、姿勢・持ち方について細かな説明を行い、すり足や突き方の練習を行った。ここまでの基本動作を「基の呼吸」とした。続いてバドミントンのラケットの網の部分に新聞紙的を取り付けたものを突く練習を「紙の呼吸」。的を新聞紙から風船に替えて突く練習を「風の呼吸」。宙に浮かして動いている風船を突く練習を「動の呼吸」。最後に研究者の肩を実際に突く練習を「真の呼吸」とした。いずれも、実技の練習の際には音楽を流し、明るい雰囲気の中で取り組ませた。最後に「己の邪気を取り払い、己の人生に全集中せよ」と精神面のメッセージを伝え、模擬授業を終えた。

模擬授業終了後は、研究者より模擬授業の感想、互いのグループの模擬授業の評価を話し合った。最後に外部指導者に銃剣道授業を行ってもらおうための方策を話し合い、2日目の日程を終えた。

■3日目（12月10日）

最終日は、石川研究者が善通寺市西中学校において外部指導者を活用した銃剣道授業の映像を紹介した。

自衛隊に勤務する外部指導者5名の協力を得て、2日目の模擬授業で行った風船突きなどを実際の授業で実施している映像を視聴し、視聴後は研究者同士で感想や意見を述べ合った。

閉講式では、石川研究者が講評を述べ、研究授業の全日程が終了した。